

令和2年度 上宮学園中学校・上宮高等学校 学校計画と学校評価

1 建学の精神

本学園は浄土宗を母体とし、法然上人の仏教精神を教育の根底におく学校である。知育・德育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」は、中学生・高校生として生徒一人一人が、人間としてのるべき生き方と真理を探求する正しい心の眼と思いを持ち、理想を求めて主体的に行動することを説いている。

また、学順「一に掃除・二に勤行・三に学問」とは、校訓を実現させるための具体的な行動を示している。掃除とは文字通り身辺の環境美化を意図するとともに、学ぶ心の準備を意味する。勤行とは勤勉実行を意味する。それは一生を通して求められる生活の行動指針であり、学校生活では学業や課外活動にも規範意識を持って精進努力することであり、社会人となれば強い勤労意欲を持つことである。学問は勤行から得られる知識と健康な心身を土台として、未知への探求心や自らの疑問を解決する能力としての智恵を養うことである。すなわち、先ず心を清めて素直な心がけを第一とし、次に己が身の力の限り努力して勉学に勤しみば、学問は自ずと身に備わり、その真価を發揮できることを示している

2 教育目標（目指す学校像）

- ① 建学の精神を可視化した「上宮ルーブリック」にある具体的な教育指標をもって、心の教育を実践する。
- ② 中学生には、基本的な生活習慣と学習習慣を定着させるとともに、様々な行事を通して個性・独自性を育て、「人間力」の礎を作る。
- ③ 高校生には、大学進学等に必要な学力の養成と進路学習に重点を置くとともに、生徒の自己実現、社会参加および社会貢献に目標を持たせ、自立（自律）と社会で生きる共生の精神を育成する。
- ④ 教員は教育活動を通して社会貢献を行うという志を持ち、在校生・卒業生が上宮人として誇りに思う学校を目指し、生徒の将来に思いを寄せるとともに、いつでも卒業生を温かく迎える気持ちを持ち続ける。

3 中期的目標

I 学校生活の充実

- (1) 生徒アンケートにおける全体の実質的な満足度が90%になることを目標とする。また「家庭学習」「理解確認」「公平対応」の数値を上昇させる取り組みを行う
- (2) 働き方改革を踏まえたクラブ活動等の課外活動の環境充実を図る。
- (3) 合宿・校外学習・海外研修などの校外行事について精査する。
- (4) いじめ防止と対策について、進化させる
- (5) 新校舎に関する安全対策の推進

II 教育環境の整備と発展

- (1) 新校舎における教育環境を最大限に生かせる取り組みを継続する。
- (2) 上宮の4つの教育改革を以下のように推進する。
 - I ルーブリックの運用・拡大
 - II 英語教育の改革
 - III 授業法の改良（アクティブラーニング）
 - IV I C T教育
 - ①2022年もしくは2023年度から導入されるデジタル教科書に対応する教員用ならびに生徒用のデバイスを検討する。
 - ②I C T授業のために導入するソフト・アプリ（ロイロノートやClassi Note等）を検討する。
- (3) 通年実施および期末考査後実施の年間補講習計画を立てる。
- (4) 教員対象の研修会の充実。

III 宗教情操教育の深化と生活指導の充実

- (1) 宗教情操教育の重要性を確認し、本校独自の躾教育を継続する。

IV 進路指導の充実と大学合格実績の向上

- (1) 進路指導L.H.Rのあり方を見直す。
- (2) 上宮学園中学校から上宮高等学校・上宮太子高等学校への進学指導が適切に行われ、保護者・生徒の満足を得られる環境を推進する。
- (3) キャリア教育の充実を図る。
- (4) 中学の学力推進
 - ①学力推移調査の平均偏差値上昇の立案と実施に着手する。
 - ②中学3年生の全国学力学習状況調査における目標設定。
- (5) 高校の学力推進と進学目標
 - ①模擬試験の結果を活用し、生徒の学力向上につなげる。
 - ②各コースの進学目標設定
 - ③定期考査のみならず、実力を向上させる自主学習に取り組む姿勢を身につけさせる。
 - ④各種の資格や検定についての努力目標を設定させる。
- (6) JAPAN e-Portfolioの活用に着手する。

V 広報戦略の充実

- (1) 建学の精神を中心に据え、共学校としてのブランドコンセプトを構築する。
- (2) 重要情報の学内への公開、情報の共有化を図る。
- (3) 生徒増加につながる、より効果的な様々な広報戦略を検討する。
- (4) 中学入試方式の多様化についての検討を継続する。
- (5) 公開授業見学会・プレテスト会・入試説明会の円滑な運営を進める。
- (6) 高校入試説明会の円滑な運営を進める。

VI 財務・経営面

- (1) 教育基盤を確立し、かつ社会的信頼を得るための学園体制をつくる。
- (2) 強固な財政基盤を確立し、長期にわたる財務計画・運営をおこなう。
- (3) 支出を抑制するための改革・改善に取り組む。
- (4) 中長期の教職員数を検討し、要員計画策定を実施する。
- (5) 働き方改革関連法への対応を速やかに進める。
- (6) 学園財務健全化の推進と組織作りを進め、学園ブランド確立に取り組む。

4 本年度の取組内容及び自己評価

(A : 目標が「達成できた」, B : 「7割以上が達成できた」, C : 「4割以上が達成できた」, D : 「ほぼ達成できなかった」)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）		自己評価と分析
1. 学校生活の充実	(1)授業アンケートの結果と評価 (2)働き方改革と課外活動の在り方のめどを立てる。 (3)校外行事の整理を行う。 (4)いじめ防止対策の充実 (5)危機管理対策の充実（管・事）	(1)web 上で授業アンケートを実施する。 (2)管理職と事務による勤怠管理システムの導入とクラブ活動の調査を行う。 (3)各学年による行事の見直しと改善をはかる。 (4) いじめ防止対策マニュアルの見直しと委員会活動の精査を行う。 (5) 危機管理マニュアルの改訂	(1) 総合評価は、中学、高校とも 90%を目指す。 (2)・勤怠管理システムの導入・課外クラブ活動時間の調査 (3)行事予定会議での審議 (4)国が指定する要項のチェックと委員会活動の報告 (5)様々な分野においての対策を完備	(1)C (2)C (3)D (4)C (5)C	(1)中学 84%, 高校 84% (2)勤怠管理システムは導入できたが、クラブ活動調査まで至らなかった。 (3)コロナ禍による実施できない行事が発生した。 (4)委員会活動はできているが、全体への報告が不十分 (5)感染症対策の準備を変更しながら実施した。
2. 教育環境の整備と充実	(1)上宮ルーブリックの活用促進 (2)教科会の機能充実の推進。 (3)コース再編について目途を立てる。 (4)英語民間試験の大学入試への活用の拡大。 (5)ID 関係の充実（A.L.含む） (6) e ラーニング関連の充実	(1)特に、高校での活用を促進する (2)①研究授業を活発化する ②A.L.等の推進 ③学校内外の研究会参加推進 (3)国公立会議の審議からコース編成会議へ (4)国の方針変更により具体的な計画を見直す。 (5) 2022 年度以降に生徒や教員が使用するデバイスやアプリの検討 (6)[Classi] について ①保護者、生徒、教員間のコミュニケーションのさらなる充実。 ②ポートフォリオを用いて生徒が学習面や生活面での振り返りを行ってメタ認知の向上 ③学習マップを用いて生徒が各教科の苦手項目の克服を行うアダプティブラーニングの充実 ④学習動画を用いて、Benesse のアセスメントテストの事前、事後学習の促進 ⑤学習マップ、Compass を用いて各担任と生徒との面談の充実の促進 ⑥コンテンツポックスを用いて校内資料の共有の促進 ⑦校内でのアンケートの利用促進 ⑧その他 Classi の利用の研究普及 [iPad] について ①iPad を用いて生徒への ICT 教育の普及、促進、研究 ②教員の iPad 利用の促進 ③会議等での iPad を利用してのペーパレスの促進	(1)上宮ルーブリックのデータ化によって指標とする (2)①研究授業の回数 ②③A.L.社等の外部機関との連携についての達成度 (3)2020 年度中のコース編成会議での審議 (4)評価指標不明 (5) ID 係の学校評価の総括を参照 (6)については e ラーニング係の学校評価の総括を参考	(1)C (2)C (3)C (4)C (5) (6)	(1)高校での活用が不十分 (2)①②③とも、コロナ禍にあって進展せず (3)該当学年の状況によって考案事項が発生。今後も情報を集めて検討 (4)今後も情報を集めて検討 ※(5)ID 係の評価参照 ※(6)についての評価は e ラーニング係の評価を参照

3. 宗教情操教育の深化と生活指導の充実	(1)生徒による挨拶運動や登下校時の通学マナーアップ運動などの推進。 (2)頭髪一斉指導と遅刻指導の改良 (3)メディアリテラシーおよび情報モラルについての教育の推進	(1)生活指導会議による審議と決定 (2)生活指導会議による審議と決定 (3)教務及び生活指導による会議による決定と実施	(1)挨拶運動やマナーアップ運動実施の有無 (2)指導法改善の有無 (3)具体的な指導例の提示	(1)C (2)C (3)C	※(1), (2)についての評価は生活指導の学校評価総括も参照 (3)指導はしているものの、指導法の具体性が欠けている。
4. 進路指導の充実と大学合格実績の向上	(1)模擬試験・スタディサポートの分析会の改良と結果を生徒の学力向上に役立てる仕組みを作る。 (2)大学入試における「小論文」「志望理由書」活用の拡大に対応した指導を考える (3)ペネッセの「進研模試デジタルサービス」の利用促進。 (4)家庭学習を促すため、補助課題を定期考査の出題範囲に加えるなどの工夫。 (5)一般入試に合格できる学力を養成する具体策を検討し、実行する。 (6)中学校の英語については、各学年の英検目標級の達成度を高める。 (7)中学校においては、「朝読」を定着と課外の補講習を充実させる。 (8)各種有料講習の運用度を高める。 (9)学力推移調査対策の推進と進路指導。 (10)探究活動についての継続審議と実施。 (11)エンパワーメントプログラムの充実。 (12)中学校における進路教育の充実を図る。 (13)生徒・保護者のためになり、わかりやすい進路説明会を心掛ける。 (14)進路指導部と各コースが緊密に連係する。 (15)大阪私立高等学校進路指導研究会の情報を得て本校の教育指導に役立てる。 (16)大学入試結果について、中間集計を含め迅速に情報共有できる方策を考える。	(1)～(3),(8),(11),(13)～(16) は進路指導部での取組課題 (進路指導部での報告書に記載) (4)各コース会議、各教科会での取り組み課題として検討 (5)各コース会議、各教科会等による検討 (6)中学・英語科により審議を重ねる (7)中学による検討 (9)中学および進路指導部による検討 (10)主に高校教務での審議 (12)中学および進路指導部による検討	(1)～(3),(8),(11),(13)～(16) は進路指導部での記載事項を参照 (4)各コース、教科での決定とシラバスへの反映 (5)具体策の明確化 (6)本年度の英検合格級の達成度の算出 (7)朝読と補講習の達成度の算出 (9)学力推移調査対策実施 教科と結果の分析 (10)探求活動係による実施状況 (12)具体的な取組み内容と実施の回数	(4)C (5)D (6)D (7)D (8) (9)C (10)B (12)C	※(1)～(3),(8),(11),(13)～(16) は進路指導部での記載事項を参照 (4)各部署の検討の最中である。 (5)具体案がまだ明確ではない (6)コロナ禍で、積極的な受験を勧められなかった (7)朝の健康管理に時間が割かれ充分な時間が取れなかった ※(8)進路参照 (9)コロナによる休校のため、実施時期に無理が生じた (10)プログラムの骨格を定め切れていない ※(11)進路参照 (12)コロナのため、検討していた体験学習ができなかった (13)～(16)※進路参照
5. 広報戦略の発展	(1)ポスター・リーフレット・などについて、他校との差別化ができるものを作成する。 (2)ホームページの充実をはかる。 (3)生徒増加につながる広報戦略 [中学] ①自己アピール型入試の広報を検討する。 ②適性検査型入試の志願者を増やす方策を検討する。 ③女子生徒の志願者を増やすための方策を検討する。 ④プレテスト・公開授業見学会に日程や内容を再検討する。 [高校] ①中学校や塾との信頼関係を保ち、生徒募集に繋げる。②入試での資格取得者（英検・漢検・数検等）の点数化や優遇措置を検討する。 [全体] ①入試対策部内の情報共有を密にする。 ②入試対策部と広報戦略部との連携を密にする。 ③入試説明会における在校生の活用を検討する。 ④塾対象説明会の日程と内容について検討する。	(1)広報戦略会議と入試対策部の検討 (2)広報戦略会議、入試対策部での検討をもとにH.P.担当と制作会社との対応 (3) [中学] ①～④ 広報戦略会議、入試対策部および中学教務での検討 [高校] ①～③広報戦略会議、入試対策部および高校教務での検討 [全体] ①入試対策部での課題 ②入試対策部と広報戦略部代表者の会議 ③広報戦略会議での課題 ④入試対策、広報戦略、中高教務での検討	(1)配布対象者からの反応 (2)H.P.来訪者の数 (3) [中学] ①②③入試受験者の分析結果 ④プレテスト受験者の分析結果 [高校] ①塾へ来訪回数及び塾からの受験者の数 ②検討会数と結果 [全体] ①入試対策部の学校評価を参照 ②入試対策部と広報戦略部代表者の会議数 ③会議での結果 ④塾対象説明会参加者の数とアンケート調査の結果	(1)C (2)C (3) 中学 ①C ②C ③C ④C 高校 ①C ②C 全体 ①C ②C ③D ④C	(1)表紙等の材質について好評である (2)全体では122万PVで、18万人のアクセスがあった。学校情報が不足している為、スクールライフの掲載が急務である (3) 中学 ①②コロナ禍において十分な広報ができなかった ③新制服や新校舎の広報は一定の効果があった ④プレテストは過去最高の受験生を確保した。 高校 ①コロナ禍において十分な広報ができなかった ②十分な検討時間がなかった 全体 ①②入試対策部での評価参照 ③コロナ禍において実施できなかった ④コロナ禍においてできることは実施できた

6. 健全な経営	(1)事業計画に基づく財政計画の策定 および創立130周年事業の推進 (2)強固な財政基盤の確立	(1)創立130周年事業における教育環境の整備計画を推進 (2)①教育改革推進を可能とする収支構造の改善 ②補助金を活用した事業計画と、同窓会・産業界との連携強化 ③税制優遇制度を活用した募金活動 ④既存の諸制度の見直し。 (3)①新規採用方法に工夫を加える。 ②「働き方改革関連法」に則した勤務体制を整備する。 ③教員人事制度改革の検討。 ④事務局の体制整備と人員配置。 (4)①同窓会・産業界との連携強化 ②地元地域との交流 ③生徒募集広報の強化	(1)北キャンパス改修、グランド整備の完成 (2)①計算書類 ②ICT教育環境整備 ③募金額 ④就業規則等の改訂 (3)①有期常勤制度等の確立 ②変形労働制の確立 ③就業規則等の改訂 ④事務局体制 (4)①総会及び行事での交流 ②学園設備の貸出、行事での交流 ③入試対策部・広報係の評価に準ずる	(1)A (2) ①B ②B ③B ④C (3) ①A ②D ③C ④A (4) ①D ②D ③B	(1)無事に完成 (2)①工事延期のため、昨年分の支出が今年度に及ぶ ②休校に際しリモート授業等の環境を整備 ただし、各業界とは連携できず ③目標募金額に到達できず ④原案作成中 (3)①制度確立 ②コロナ禍により通常の勤務態勢がとれなかった ③原案作成中 ④新しい事務局体制 4)①コロナ禍による行事等の中止 ②コロナ禍による行事等の中止 ③コロナ禍においてできることは実施できた
	(3)社会変化に対応できる組織力の確立				
	(4) 学園ブランドの確立				

※各部署（分掌・教科・学年・コース）の自己評価は別途あり。

5 学校評価アンケートの結果と分析

令和2年度の学校評価アンケートは従来の紙ベースではなく、Classiを利用したアンケート調査形式を採用し、従来とは異なる質問項目を加えた。そのため回答率が下がり、保護者からの回答率は75.4%であった。質問事項は以下の22項目である。

No	質問文	短縮表記
1	教育理念が教育活動全般に反映されていると感じますか？	教育理念の反映
2	お子様の学校生活は楽しく充実していると思いますか？	学校生活
3	教師は生徒の学習意欲を高める努力をしていると思いますか？	教師の努力
4	授業の進み方に満足していますか？	授業の進み方
5	教材やテキストは充実していると思いますか？	教材の充実度
6	平常の補講習やレゼミ（英検対策、オンライン英会話含む）は、進路実現に向け有効であると思いますか？	補講習やレゼミ
7	特別教室や、実験室、自習室などの学習環境が整っていると思いますか？	学習環境
8	保健室や食堂等、安全で健康的な生活環境が整っていると思いますか？	生活環境
9	担任は親身になって個別的な相談に応じてくれますか？	担任の個別相談
10	基本的な生活習慣が身に付く生活指導が行われていますか？	生活指導
11	将来の進路や生き方についての指導が十分なされているだと思いますか？	進路指導
12	進路及び教育活動に関する保護者説明会や懇談会は充実していると思いますか？	保護者向け説明
13	今年のコロナ禍の休校期間中の学校対応は、満足いく内容だったと思いますか？	休校期間中の対応
14	部活動は活発で内容が充実していると思いますか？	部活動
15	学校からの通信や文書は、学校の様子が家庭に良く伝わる内容となっていますか？	学校からの情報発信
16	教師は家庭との連絡を大切にしていると思いますか？	家庭との連絡
17	本校の防犯、防災、安全管理への対策は十分だと思いますか？	学校の安全性
18	現在のお子様の担任の指導には満足されていますか？	担任の指導
19	現在のお子様の学年の運営には満足されていますか？	学年運営
20	お子様は学校の教育理念に示された人間像に向かって成長されていると実感されますか？	成長実感
21	学校はよい友人関係を築く場になっていると思いますか？	友人関係構築
22	本校を選ばれたことに満足されていますか？	学校満足度

データ分析方法

以上の22項目について、とてもそう思う（3点）・そう思う（1点）・そう思わない（-1点）・とてもそう思わない（-3点）の4段階評価をしていただき、その平均値を算出した。その結果を以下に示す。項目は上表の短縮表記を用いている。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
の教 反育 映理 念	教 育 校 生 の 活 力	力 教 師 の 努 進	教 み 授 業 方 の 充 進	教 実 材 の 充 習	U 補 学 習 材 の 充 習	学 習 環 境 の 充 習	生 活 環 境 の 充 習	別 担 任 の 個	担 任 の 個	生 活 環 境 の 充 習	進 路 指 導 の 個	明 保 護 者 の 個	進 路 指 導 の 個	対 休 校 の 個	部 活 動 の 個	報 学 校 の 個	連 家 庭 の 個	全 学 校 の 個	担 任 の 個	学 年 の 個	成 長 実 感 の 個	構 友 人 関 係 の 個	度 学 校 満 足 度
保護者全体	1	1.4	0.9	0.8	1	0.9	1.1	1.4	1.5	1.2	0.9	0.7	0	1.1	0.9	1	1.1	1.5	0.9	0.7	1.5	1.3	
教員	0.5	1.2	0.9	0.9	1.1	0.9	0.4	1.8	1.3	1	0.7	0.7	0.1	1.5	0.9	1.3	0.4	1	0.9	0.6	1.3	1	
中学	1.1	1.6	1.1	0.9	1.1	1.2	1.4	1.6	1.7	1.3	0.8	0.7	0.2	1.2	1.2	1.3	1.2	1.8	1.1	0.7	1.4	1.6	
高校	1	1.3	0.9	0.7	0.9	0.9	1.1	1.3	1.5	1.1	0.9	0.6	0	0.9	0.9	0.9	1.1	1.5	0.8	0.7	1.5	1.3	

データ分析の観点

学校としては評価点に対し、以下の認識をしている。

1.5以上：一定の評価を得ている 1.0以上：最低限クリアした評価を得ている 0.5以下：対策をこうじる必要がある。

中学・高校全体を通してのまとめとしては、

- ① 全体としては中学>高校の評価であった。中学の学校満足度は、1.6と保護者から総合的な評価を得ている。
- ② 保護者からの評価が相対的に高かったのは、「担任の個別相談」「担任の指導」「友人関係構築」の項目であった。
- ③ 評価が低かったのは、「休校期間中の対応」「授業の進み方」「進路指導」「保護者向け説明」「成長実感」であった。「休校期間中の対応」については、フリーアンサーにあったオンライン授業開始の遅延が原因と思われる。
- ④ 保護者-教員間での評価の差が大きかったのは、「学習環境」「学校の安全性」であり、どちらも保護者の評価の方が高かった。

6 学校評価の総括

2020年度学校計画・学校評価の大項目である「1.学校生活の充実」、「2.教育環境の整備と充実」、「3.宗教情操教育の深化と生活指導の充実」、「4.進路指導の充実と大学合格実績の向上」については、その自己評価が全体的に低い結果となっている。令和2年はコロナ禍にあり、2月27日の学校休業要請、4月7日の緊急事態宣言を受けてから6月15日の通常授業再開まで、学校はその機能を一部停止した。そのため、オンライン授業等の試行錯誤の期間が始まったが、前年度から高校で全面的に導入していたClassiの不具合がさらに混乱を招いた。学校再開後多くの学校行事の中止や変更を余儀なくされ、当初策定した学校計画が実施できない面が多々あったことが、どの分野の評価にも大きな影響を与える結果となった。今年度を振り返ると、教育活動そのものだけではなく、広報活動もオンラインによる新しい試みが要求され、大きな不安を持ちながら中学入試と高校入試を乗り切った感がある。

その様な環境下で令和2年12月に行った保護者と教員を対象とした学校評価アンケートであるが、特に「休校期間中の対応」が低い評価にとどまった。休業期間中、教員は日々新しい対応に追われ努力をしたが、オンライン授業等では生徒の反応を充分につかむこともできず、苦しい日々を送りながらも、一方で充実感を得られない日々であったともいえる。教員がその状態であるので、保護者の方々も多くの不満があったと思われる。それはまた他の評価にも影響を与えていくと思われる。すなわち、「授業の進み方」「保護者向け説明」「成長実感」等の項目である。

以上の反省をもとに、2021年度は中期的目標の中でも「生徒の学力・進学実績の向上」「学校生活の充実」「教育環境の整備と発展」を生徒・保護者に対する重点目標とし、具体的な方策を今年度目標として掲げて力を入れたい。例えば「生徒の学力・進学実績の向上」では、ベースとなるシラバスの見直し、学力目標の設定、補講習・自学自習体制の確立、さらにコースの再編も含めて躍進の基礎を創りたい。他の項目についても細部にわたり、「2021年度 学校計画・学校評価」にまとめた。

また、2021年度は保護者会活動が徐々にでも再開され、従来の形に近づいていくことを期待したい。以前のように、学校と保護者の方々とのコミュニケーションが生徒・保護者・学校の成長発展につながっていくもの信じている。

7 学校関係者評価

【建学の精神・教育方針について】

- 正思明行が校訓となっている理由を生徒にもう一度理解してもらいたい。
- 保護者としての学校への望み事は人間力の育成である。学力向上はもちろんだが、「人間力の育成プログラム」をご検討いただきたい。
- 上宮ルーブリックについては、保護者にもう少しありやすく説明会等があればいいと思う。上宮ルーブリックの説明会ならば保護者会活動としての開催も可能である。

【勉学面・進学面について】

- 早い段階にて勉強をする意味や、今後の社会においての理想像を追っていけるような指導があれば、より学びの姿勢が強くなれると感じる。
- 経験豊富な先生方の実体験を授業の添えではなく、将来のビジョンとして、講演会のような形で伝えて頂けると、より将来の夢が身近なものと成るよう思う。
- 各コースの進学目標の設定を明確にしてほしい。
- 学力アップを効率よく短時間で行える方法を考えてももらいたい。

【生活面について】

- 生徒のメンタル面での指導を積極的に行ってほしい。
- 薬物や喫煙に関する危険性について生徒に教育してほしい。